令　和　３　年

火災と救急・救助の概要

三 木 市 消 防 本 部

目　　次

[火災概要]

地区別発生件数 … 1
令和3年中の火災概要 … 2～3
火災概要(対前年比) … 4
火災の発生状況
　地区別出火件数 … 5
　月別火災種別出火件数 … 5
　四季別出火件数 … 6
　月別出火件数(5年間) … 6
　曜日別出火件数 … 6
　時間別出火件数 … 7
　署別出火件数 … 7
火災による損害額(5年間) … 8
管内出火件数・
　損害額の推移(5年間) … 8
出火原因別件数 … 9
初期消火の状況 … 9
火災による死者数(10年間) … 10
主な火災発生状況 … 10
高速道路における火災発生状況 … 11
消防部隊出動状況(対前年比) … 11

[救急・救助概要]

令和3年中の救急・救助概要 … 12～14
救急出場件数 … 15
発生地区別出場件数 … 15
署別救急出場件数 … 15
救急出場件数の推移 … 16
事故種別救急出場件数 … 16
月別救急出場件数 … 17
曜日別救急出場件数 … 17
時間別救急出場件数 … 18
現場到着所要時間別救急出場件数 … 18
病院収容所要時間別搬送人員 … 19
事故種別救急搬送人員 … 19
傷病程度別救急搬送人員 … 19
発生場所別救急出場件数 … 20
事故種別年齢別搬送人員 … 20
性別科目別搬送人員 … 20
高速道路における救急活動状況 … 21
応急処置件数 … 21
救助出動状況 … 22
地区別救助出動件数 … 22
発生場所別救助出動件数 … 22

地区別発生件数

人口･世帯数については
令和3年12月31日現在

三木市

面積	176.51㎢
総人口	75,571人
総世帯数	34,207世帯

吉　川
火災　8件
救急　353件
救助　8件

口吉川
火災　2件
救急　89件
救助　2件

細　川
火災　1件
救急　141件
救助　1件

三　木
火災　3件
救急　1065件
救助　28件

志　染
火災　2件
救急　285件
救助　10件

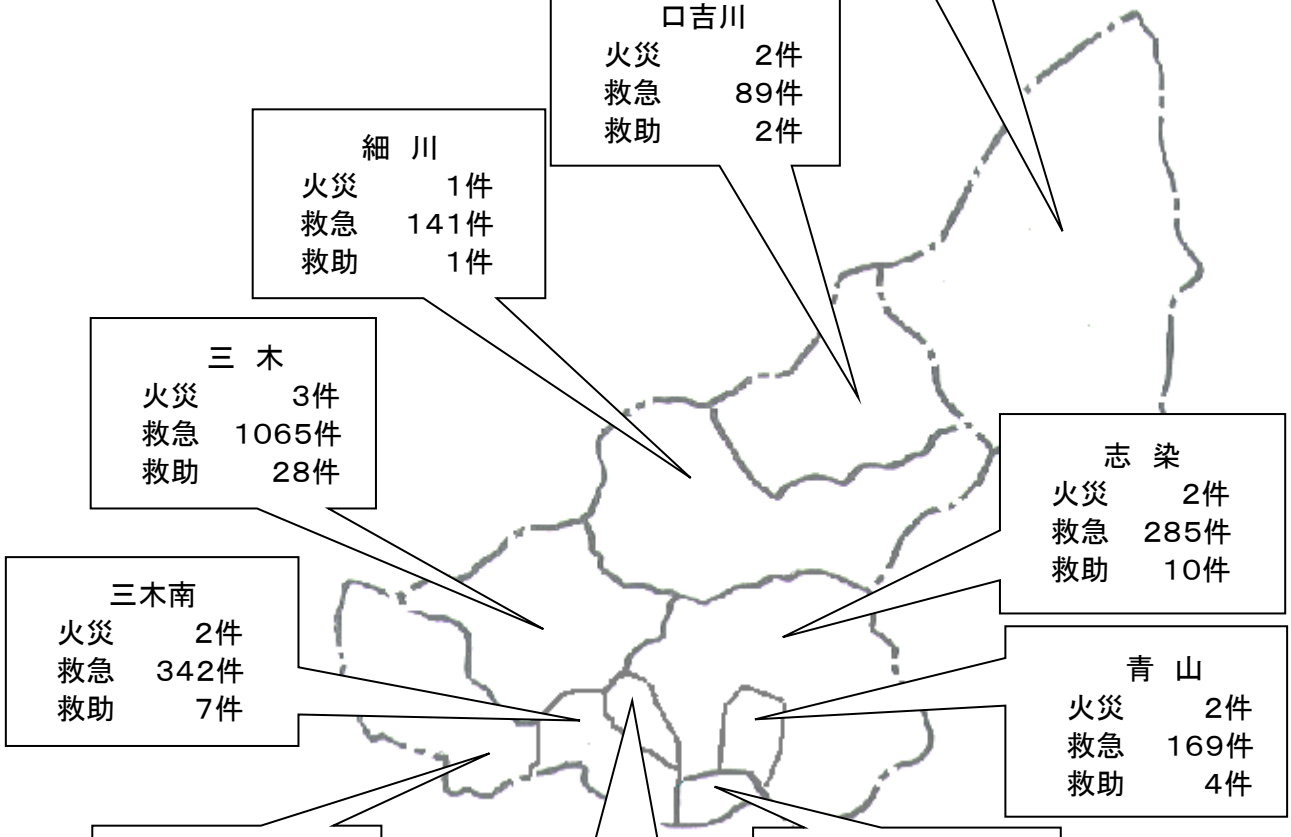
三木南
火災　2件
救急　342件
救助　7件

青　山
火災　2件
救急　169件
救助　4件

別　所
火災　3件
救急　373件
救助　9件

自由が丘
火災　2件
救急　509件
救助　17件

緑が丘
火災　1件
救急　404件
救助　5件



高速道

救急　２７件
救助　３件

他市応援

救急　７件
救助　０件

令和３年中の火災概要

１．概況

令和３年中の出火件数は２６件で、損害額は２１，９６３千円、建物焼損床面積７７３㎡、林野焼損面積８３９ａ、り災世帯１２世帯、り災人員２４人となっています。

２．出火件数

（１）出火件数

出火件数は２６件（前年比４件減）で、１４日に１件の割合で発生しています。

出火率（人口１万人当りの出火件数）は３．４４ポイント（前年比０．４８ポイント減）となっています。

（２）火災種別毎の出火件数

建物火災１５件（５８％、前年比５件増）が最も多く、次いでその他の火災７件（２７％、前年比２件減）、林野火災３件（１１％、前年比４件減）、車両火災１件（４％、前年比３件減）となっています。

建物火災の内訳は、住宅８件、工場１件、倉庫３件、その他建物３件となっています。

（３）死者・負傷者

令和３年中の火災による死者は２人（前年比同値）、負傷者は４人（前年比同値）となっています。

（４）焼損棟数

焼損棟数は２０棟（前年比９棟増）で、全焼棟数は４棟（前年比１棟増）となっています。

（５）り災世帯・り災人員

り災世帯は１２世帯（前年比３世帯増）で、り災人員は２４人（前年比１人減）となっています。

（６）焼損面積

建物焼損床面積は７７３㎡（前年比４５７㎡増）で、林野焼損面積は８３９ａ（前年比７８２ａ増）となっています。

（７）出火原因

出火原因のトップは「たき火」の１０件となっており、「不明（調査中含む）」が４件、「配線器具」が３件、「電気機器」が２件、「たばこ」「炉」「焼却炉」「電灯・電話等の配線」「内燃機関」「放火」「放火の疑い」が各１件となっています。

（８）損害額

火災による損害額は２１，９６３千円（前年比４，２０２千円増）となっています。

建物損害額（収容物含む）は２１、４０５千円（前年比４，５８７千円増）で、建物火災１件あたりの損害額は１，４２７千円（前年比２５５千円減）となっています。

３．まとめ

令和３年中の出火件数は２６件（前年比４件減）、損害額は２１，９６３千円（前年比４，２０２千円増）、火災による死者は２人（前年比同値）、負傷者は４人（前年比同値）です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけていただくことが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火からの火災を防ぐためには事前に水バケツなど消火用具を準備、周囲の地形等の調査及び近隣住民に知らせておく必要があります。火を扱う行為を安易に考えず、注意事項を確認の上慎重に実施していただくことが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

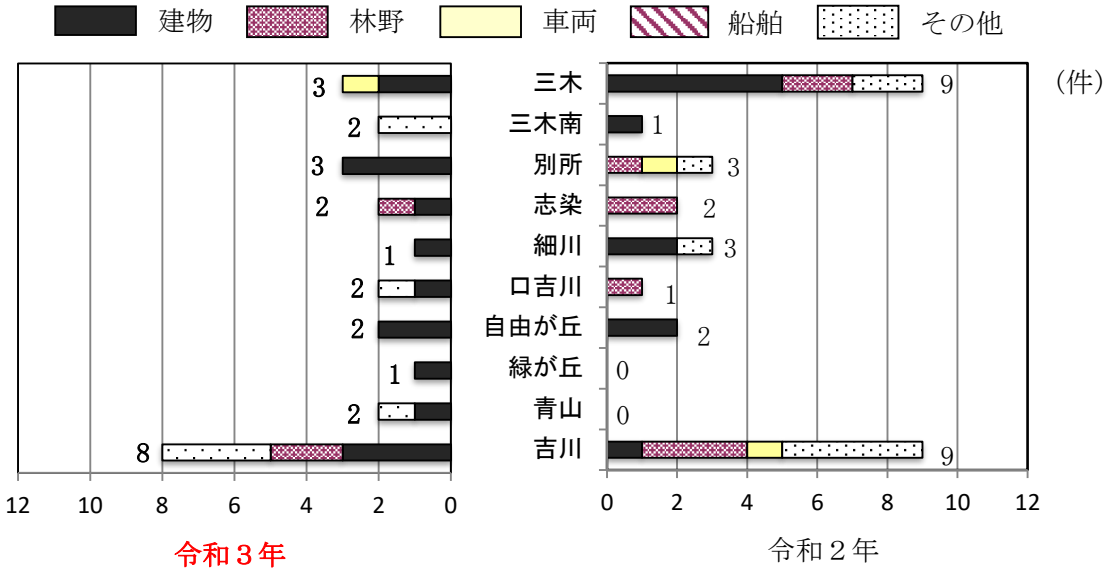
出火件数は前年と比べ４件減少。火災種別では建物火災が５件増加、林野火災４件、車両火災３件、その他火災が２件減少しています。

区分			単位	令和３年	令和２年	増減
出火件数			件	26	30	△ 4
	建物		〃	15	10	5
		内訳 住宅	〃	8	4	4
		内訳 工場	〃	1	1	0
		内訳 その他	〃	6	5	1
	林野		〃	3	7	△ 4
	車両		〃	1	4	△ 3
	船舶		〃	0	0	0
	その他		〃	7	9	△ 2
損害額			千円	21,963	17,761	4,202
	建物		〃	21,405	16,818	4,587
		内訳 建物	〃	19,169	13,770	5,399
		内訳 収容物	〃	2,236	3,048	△ 812
	林野		〃	0	0	0
	車両		〃	10	915	△ 905
	船舶		〃	0	0	0
	その他		〃	548	28	520
	爆発		〃	0	0	0
建物焼損棟数			棟	20	11	9
	全焼		〃	4	3	1
	半焼		〃	1	0	1
	部分焼		〃	9	4	5
	ぼや		〃	6	4	2
爆損	損害棟数		棟	0	0	0
	車両等数		台	0	0	0
焼損	建物床面積		㎡	773	316	457
	建物表面積		㎡	252	130	122
	林野		a	839	57	782
	車両		台	1	3	△ 2
	船舶		艇	0	0	0
負傷者			人	4	4	0
死者			〃	2	2	0
り災世帯			世帯	12	9	3
	全損		〃	2	2	0
	半損		〃	1	0	1
	小損		〃	9	7	2
り災人員			人	24	25	△ 1
建物１件当りの損害額			千円	1,427	1,682	△ 255
〃	焼損床面積		㎡	52	32	20

※損害額については、調査中1件を除く。　　△ 印は減少

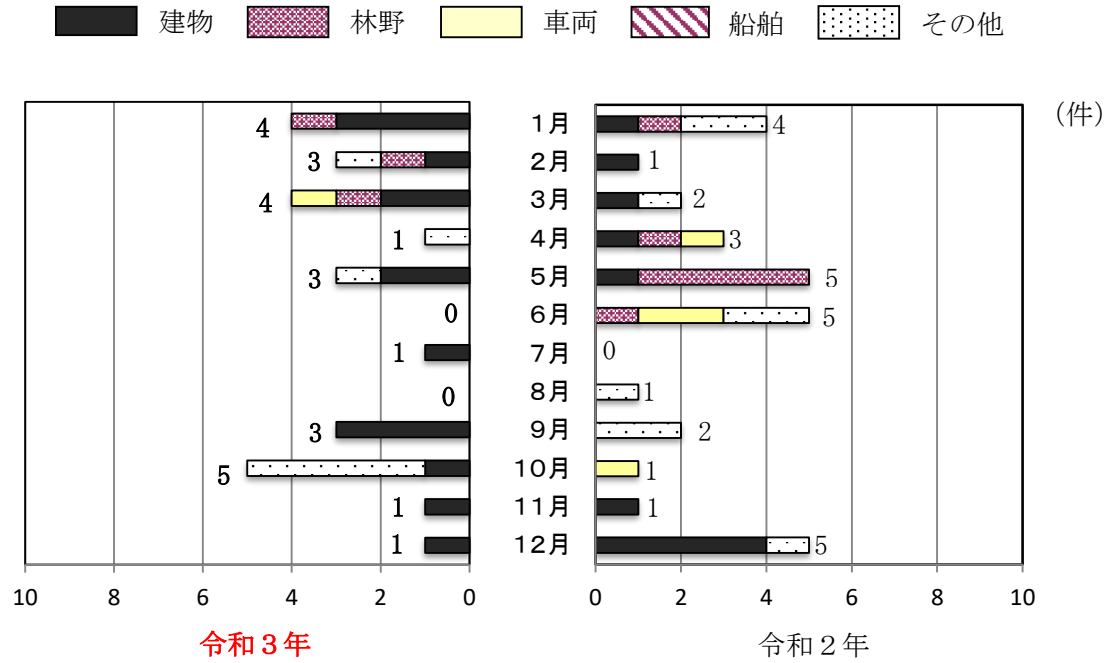
地区別出火件数

前年と比較すると、三木南地区、口吉川地区、緑が丘地区、青山地区が増加し、三木地区、細川地区、吉川地区は減少、その他の地区については増減はありませんでした。



月別火災種別出火件数

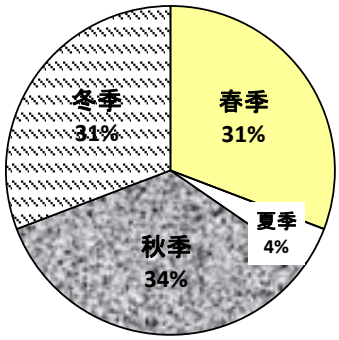
前年と比較すると、２月・３月・７月・９月・１０月が増加し、４月・５月・６月８月・１２月が減少しています。



四季別出火件数

春季（３・４・５月）	8	件
夏季（６・７・８月）	1	件
秋季（９・１０・１１月）	9	件
冬季（１２・１・２月）	8	件
計	26	件

出火件数比率

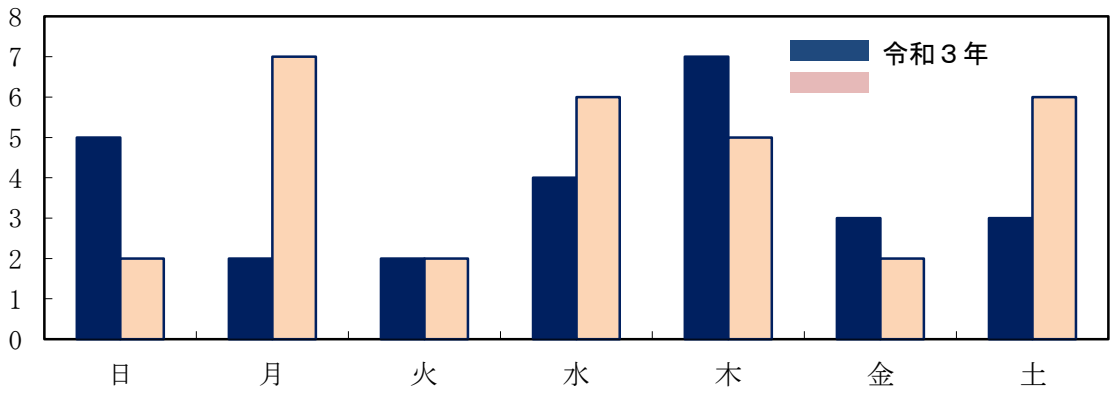


月別出火件数（５年間）

月／年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
平成30年	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28
平成29年	1	3	7	1	8	1	3	2	4	1	2	6	39

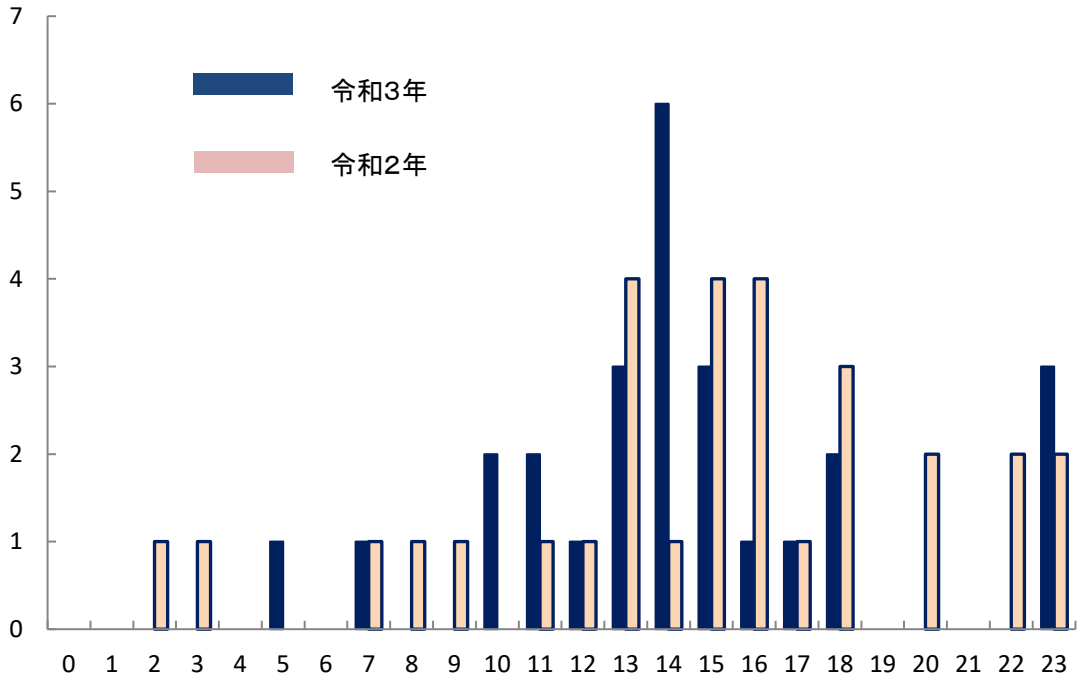
曜日別出火件数

木曜日（７件）、日曜日（５件）、水曜日（４件）に多く発生しています。



曜日／年	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和３年	5	2	2	4	7	3	3	26
令和２年	2	7	2	6	5	2	6	30

時間別出火件数



年＼時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和３年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	2	1	3	6	3	1	1	2	0	0	0	0	3	26
令和２年	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	4	1	4	4	1	3	0	2	0	2	2	30

署別出火件数

本署は火災件数が７件減少、広野分署は３件の増加しており、吉川分署は１１件同値となっています。

種別	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
年＼署別	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年
本　　署	6	6	1	2	1	3	0	0	0	4	8	15
広野分署	4	2	0	1	0	0	0	0	3	1	7	4
吉川分署	5	2	2	4	0	1	0	0	4	4	11	11
合　　計	15	10	3	7	1	4	0	0	7	9	26	30

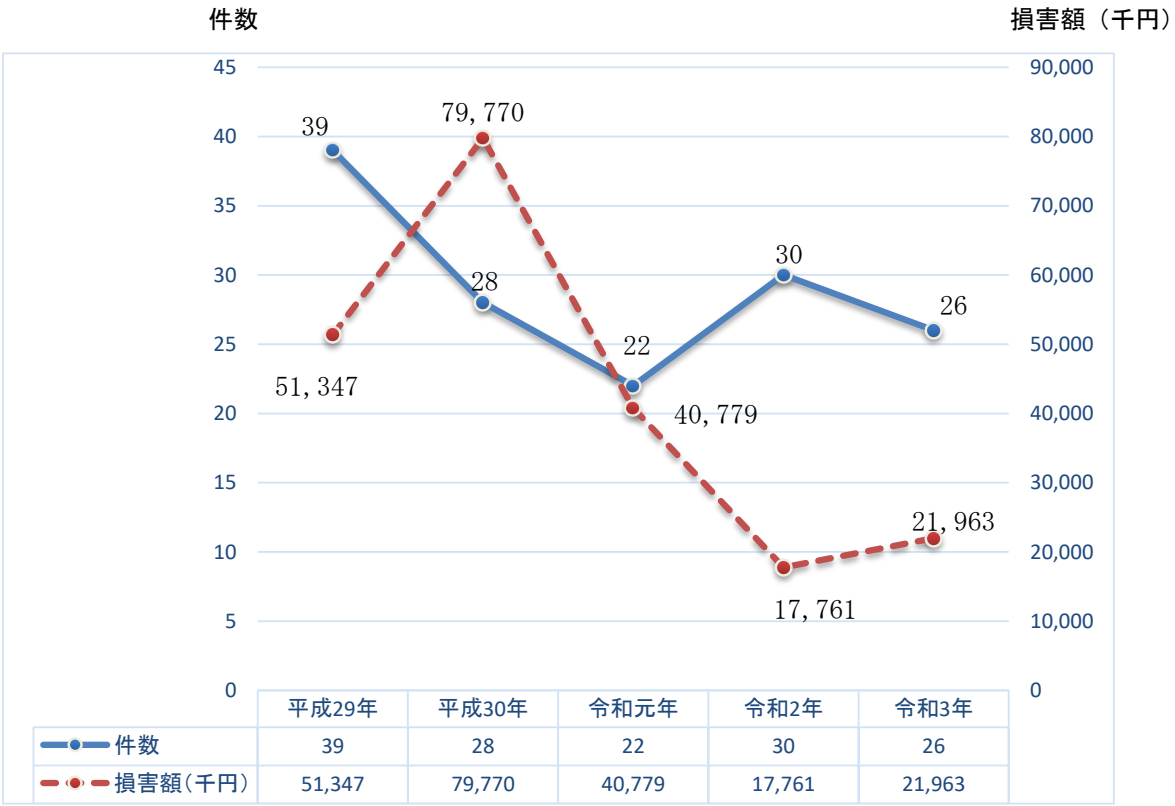
火災による損害額（５年間）

（損害額単位：千円）

項目＼年			令和３年	令和２年	令和元年	平成30年	平成29年
火災損害額			21,963	17,761	40,779	79,770	51,347
	内訳	建物	21,405	16,818	38,406	74,185	46,586
		林野	0	0	0	0	0
		車両	10	915	1,863	4,520	1,361
		船舶	0	0	0	0	0
		その他	548	28	510	1,065	3,400
１件当り損害額			845	592	1,854	2,849	1,317
出火件数			26	30	22	28	39
	内訳	建物	15	10	10	18	18
		林野	3	7	4	1	2
		車両	1	4	4	4	6
		船舶	0	0	0	0	0
		その他	7	9	4	5	13

※　火災損害額のその他に爆発損害を含む。

管内出火件数・損害額の推移（５年間）



出火原因別件数

出火原因のトップは「たき火」の１０件で、全体の約３８％を占めています。

出　火　原　因	令和３年	令和２年
た　ば　こ	1	1
こ　ん　ろ		1
風呂かまど		
炉	1	
焼却炉	1	
ストーブ		1
こたつ		1
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	2	1
電気装置		3
電灯・電話等の配線	1	2
内燃機関	1	
配線器具	3	1
火あそび		
マッチ・ライター		
た　き　火　※１	10	12
溶接機・溶断機		
灯　火		
取　灰		
火　入　れ		
放　火	1	
放火の疑い	1	2
そ　の　他　※２		3
不明（調査中含む）	4	2
合　計	26	30

※１

たき火欄　内訳	令和３年	令和２年
た　き　火	5	6
虫　焼　火	5	6
合　計	10	12

※２

その他欄　内訳	令和３年	令和２年
金属との衝撃の火花		1
サウナヒーター		1
火のついたゴミ		1
合　計	0	3

初期消火の状況

令和３年は２６件の火災が発生し、そのうち１４件で何らかの初期消火を行っています。

年 / 項　目	令　和　3　年		令　和　2　年	
	実　施	有　効	実　施	有　効
消火器以外の消防用設備	0	0	0	0
水　バ　ケ　ツ	0	0	0	0
消　火　器	3	2	9	3
水道･浴槽･汲み置きの水	9	5	8	4
寝具・衣類等をかけた	1	1	0	0
も み 消 し た	1	0	2	0
そ　の　他	0	0	2	1
合　計	14	8	21	8
初 期 消 火 な し	12		9	

火災による死者数（１０年間）

年 / 地区	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年
三　木		1		1	1	1	1			1
三木南										
別　所					1					
志　染										
細　川	1	1			1					
口吉川										
緑が丘										
自由が丘										1
青　山										
吉　川	1									1
合　計	2	2	0	1	3	1	1	0	0	3
兵庫県	—	53	53	72	57	54	62	70	60	70
全　国	—	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625	1,721	1,766

※令和３年の全国・兵庫県の統計については、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
2/14	林野	13:49	0:30	志染町戸田字長坂 １８８３－１５ （大正池北東側山林）	畦焼きを実施中に火の粉が山林に飛び火し、落ち葉に着火。その後、風に煽られ延焼拡大したもの。
11/4	建物	14:35	17:06	吉川町上松	たき火の処理が不十分で再燃し家屋へ延焼したもの。

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は１件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
3/31	車両	14:21	14:33	山陽自動車道上り ２７．５キロポスト付近	商業用２トントラックから出火し、エンジンオイル圧力センサーが焼損したもの。

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より３件増加の２２４件となっています。

署別	本署		広野分署		吉川分署		合計		増減
種別＼年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	令和３年	令和２年	―
警戒	104	129	52	42	61	43	217	214	3
応援	0	2	1	0	4	3	5	5	―
風水害	1	1	1	0	0	1	2	2	―
合計	105	132	54	42	65	47	224	221	3

※「警戒」　偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」　近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和３年中の救急・救助概要

１．概況

令和３年中の救急出場件数は３，７６４件（前年比１４２件、３．９％増）で、搬送人員は３，４９９人（前年比１６７人、５．０％増）と、いずれも前年を上回りました。

１日の平均出場件数は１０．３件（前年比０．４件増）で、市民約２０人に１人が救急車を利用したことになります。

令和３年中の救助出動件数は９４件（前年比２４件増）となっています。

２．救急出場件数

（１）救急出場件数

出場件数は３，７６４件（前年比１４２件、３．９％増）で、前年を上回りました。

（２）発生地区別出場件数

三木地区の１，０６５件（２８．３％）が最も多く、続いて自由が丘地区５０９件（１３．５％）、緑が丘地区４０４件（１０．７％）、別所地区３７３件（９．９％）の順となっています。

（３）事故種別出場件数

事故種別では急病２，３３６件（６２．1％）が最も多く、続いて一般負傷６９４件（１８．４％)、転院搬送３０９件（８．２％)、交通事故２７０件（７．２％）のの順となっています。

（４）月別・曜日別・時間別状況

月別では１２月の３８８件が最も多く、続いて７月の３６１件、１月の３５６件の順となっています。最も少ないのは２月の２５７件です。

曜日別では金曜日の５６９件が最も多く、続いて月曜日・水曜日の５６５件です。最も少ないのは日曜日の４７９件です。

時間別では９時台・１０時台の２５７件が最も多く、続いて１３時台の２４５件です。最も少ないのは４時台の４５件です。

（５）現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は８．０分（前年７．７分）、５分以上１０分未満のものが２，５４７件（６７．７％）と最も多く、続いて１０分以上２０分未満が７８３件（２０．８％）となっています。

（６）病院到着所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は４０．６分（前年３９．９分）、３０分以上６０分未満のものが２，４０４件（６８．７％）と最も多く、続いて２０分以上３０分未満が７１４件（２０．４％）となっています。

３．救急搬送人員

（１）傷病程度別搬送人員

軽症１，７５４人（５０．１％）、中等症１，６０４人（４５．８％）、重症９６人（２．８％）、死亡４５人（１．３％）の順となっています。

（２）事故種別年齢別搬送人員

急病の２，１５０人（６１．４％）が最も多く、続いて一般負傷６４３人（１８．４％）、転院搬送３０９人（８．８％）の順となっています。

また、年齢別では６５歳以上の高齢者が２，３１５人（６６．２％）を占めています。

（３）性別・科目別搬送人員

男性１，９４５人（５５．６％）、女性１，５５４人（４４．４％）で、３９１人男性を多く搬送しています。

内科１，８２３人（５２．１％）が最も多く、続いて整形外科６５５人（１８．７％）、脳神経外科５９３人（１６．９％）、外科２３２人（６．６％）の順となっています。

４．応急処置件数

全搬送人員３，４９９人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ１４，０７５件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は１５８件（前年比２４件増）となっています。

５．救助件数

（１）救助出動状況

出動件数は９４件（前年比２４件増）で、救助人員４６人（前年比１２人増）となっています。事故種別では、建物等による事故が４５件（４７．９％）と最も多く、続いて交通事故３２件（３４．０％）となっています。

（２）地区別救助出動件数

三木地区が２８件と最も多く、続いて自由が丘地区１７件、志染地区１０件の順となっています。

（３）発生場所別救助出動件数

住居での事故等が５０件（５３．２％）で、道路での事故が２６件（２７．７％）となっています。

６．救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤（アドレナリン）投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

また、消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、医師による指導、助言、事後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

７．まとめ

救急出場件数は３，７６４件で、前年の出場件数より１４２件増加しました。

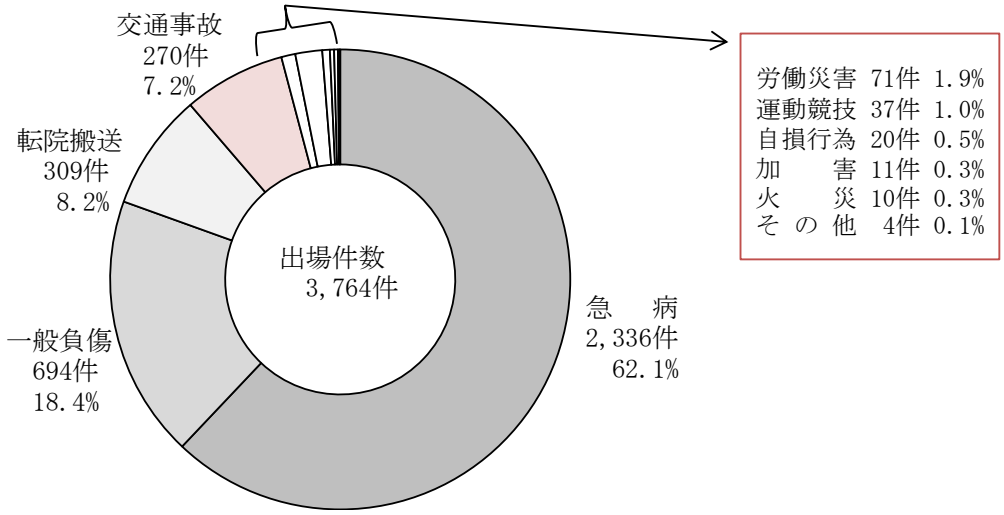
全搬送人員に占める高齢者の比率は６６．２％（前年６６．５％）で、昨年より０．３％減少しています。

救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（ＡＥＤ）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、上級救命・普通救命講習、救急法講習会を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去５年間の救助出動件数３６８件のうち１６０件と全体の４３．５％を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数３，７６４件のうち急病が半数以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区＼年	令和３年	令和２年	令和元年
出場件数	3,764	3,622	4,038
三木	1,065	1,049	1,169
三木南	342	338	378
別所	373	337	364
志染	285	262	316
細川	141	116	151
口吉川	89	97	101
緑が丘	404	393	396
自由が丘	509	520	524
青山	169	154	162
吉川	353	331	418
高速道	27	19	53
その他	7	6	6

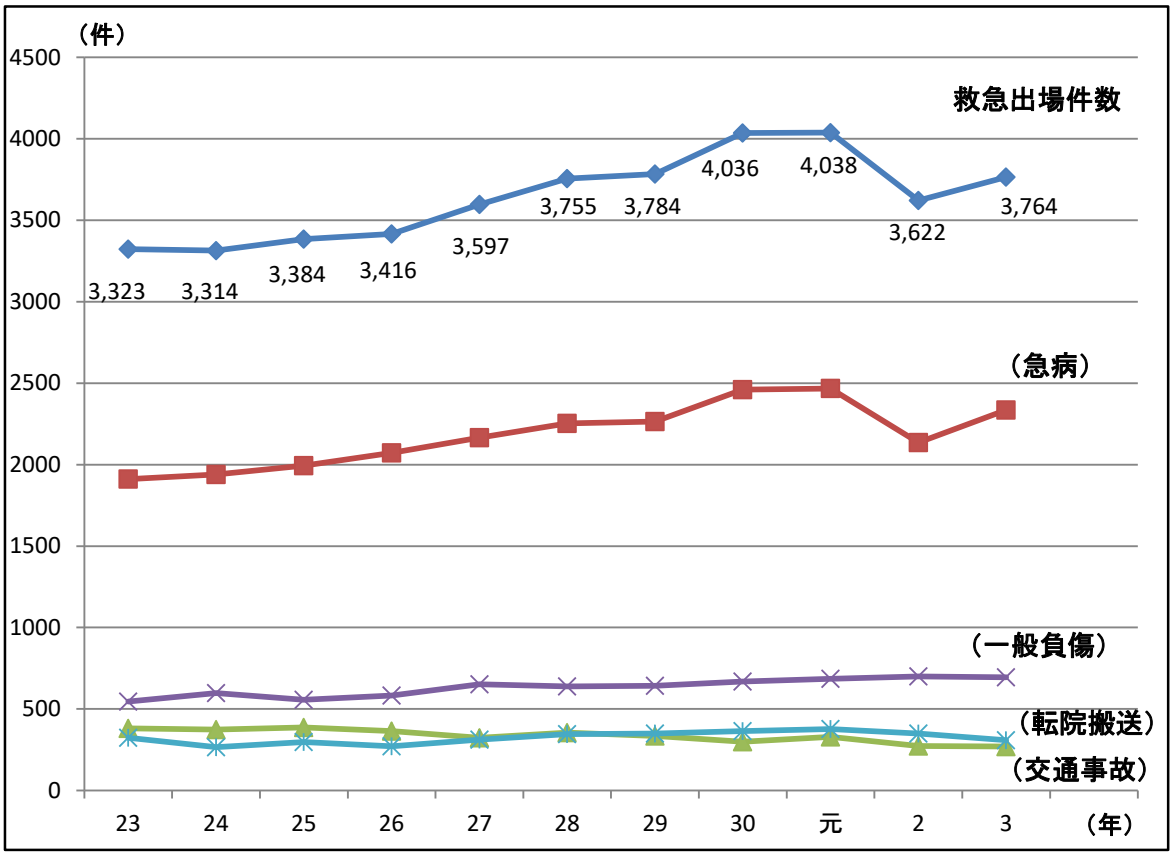
署別救急出場件数

出場割合は、本署５４．６％、広野分署３３．１％、吉川分署１２．３％となっています。

事故種別＼署別	本署	広野	吉川
火災	8	1	1
自然災害	0	0	0
水難	1	0	1
交通事故	169	75	26
労働災害	45	10	16
運動競技	18	14	5
一般負傷	368	228	98
加害	6	5	0
自損行為	10	5	5
急病	1,235	827	274
その他	195	80	38
合計	**2,055**	**1,245**	**464**

救急出場件数の推移

救急出場件数は３，７６４件で前年比１４２件増加となっています。



事故種別救急出場件数

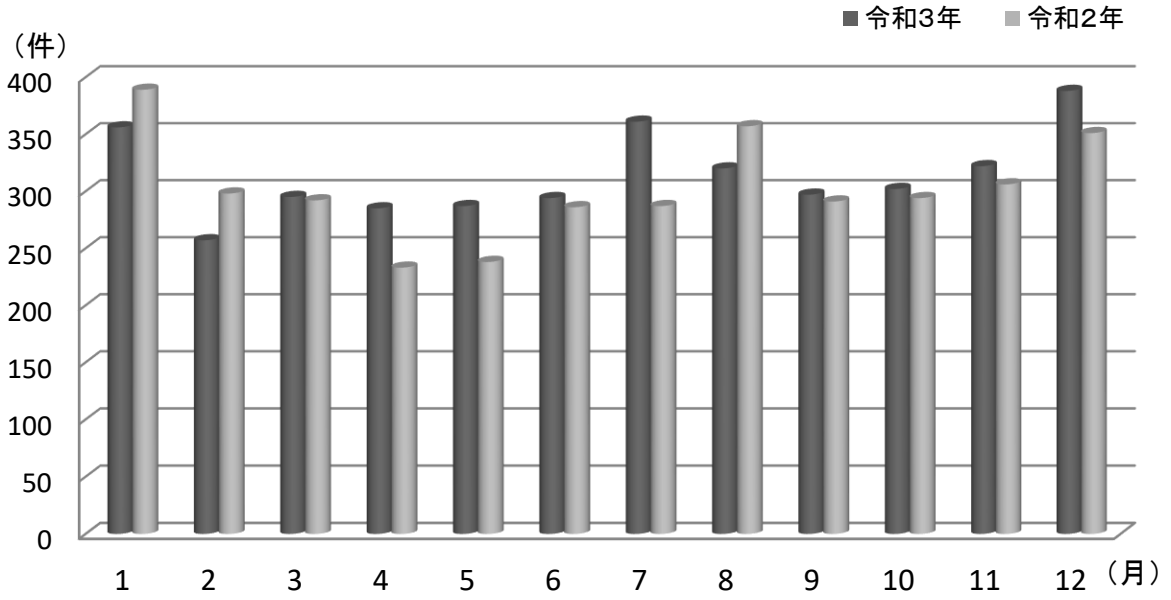
急病が昨年より２０１件増加しています。

事故種別＼年		令和３年	令和２年	増　減
火　　災		10	11	△ 1
自　然　災　害		0	0	0
水　　難		2	0	2
交　通　事　故		270	273	△ 3
労　働　災　害		71	54	17
運　動　競　技		37	50	△ 13
一　般　負　傷		694	700	△ 6
加　　害		11	12	△ 1
自　損　行　為		20	24	△ 4
急　　病		2, 336	2, 135	201
その他	転院搬送	309	349	△ 40
	医師搬送	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0
	そ の 他	4	14	△ 10
合計		**3, 764**	**3, 622**	**142**

△印は減少

月別救急出場件数

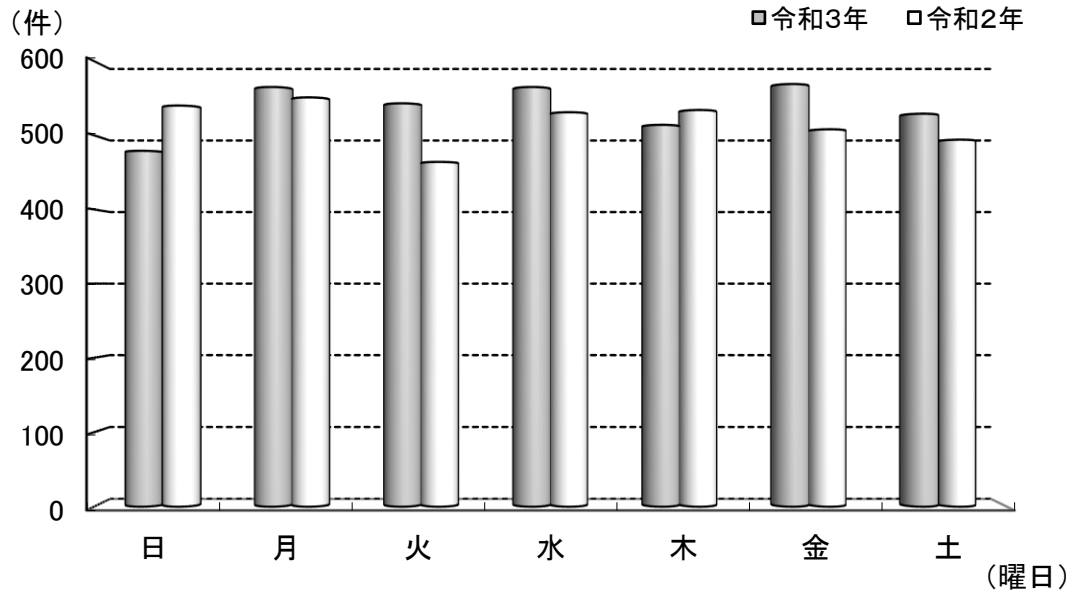
１２月が最も多く、続いて７月となっています。最も少ないのは２月です。
１ヶ月平均３１３．７件、１日平均１０．３件出場しています。



年＼月	１月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和３年	**356**	**257**	**295**	**285**	**287**	**294**	**361**	**320**	**297**	**302**	**322**	**388**	**3,764**
令和２年	389	298	292	233	238	286	287	357	291	294	306	351	3,622

曜日別救急出場件数

金曜日が最も多く、続いて月・水曜日となっています。最も少ないのは日曜日です。

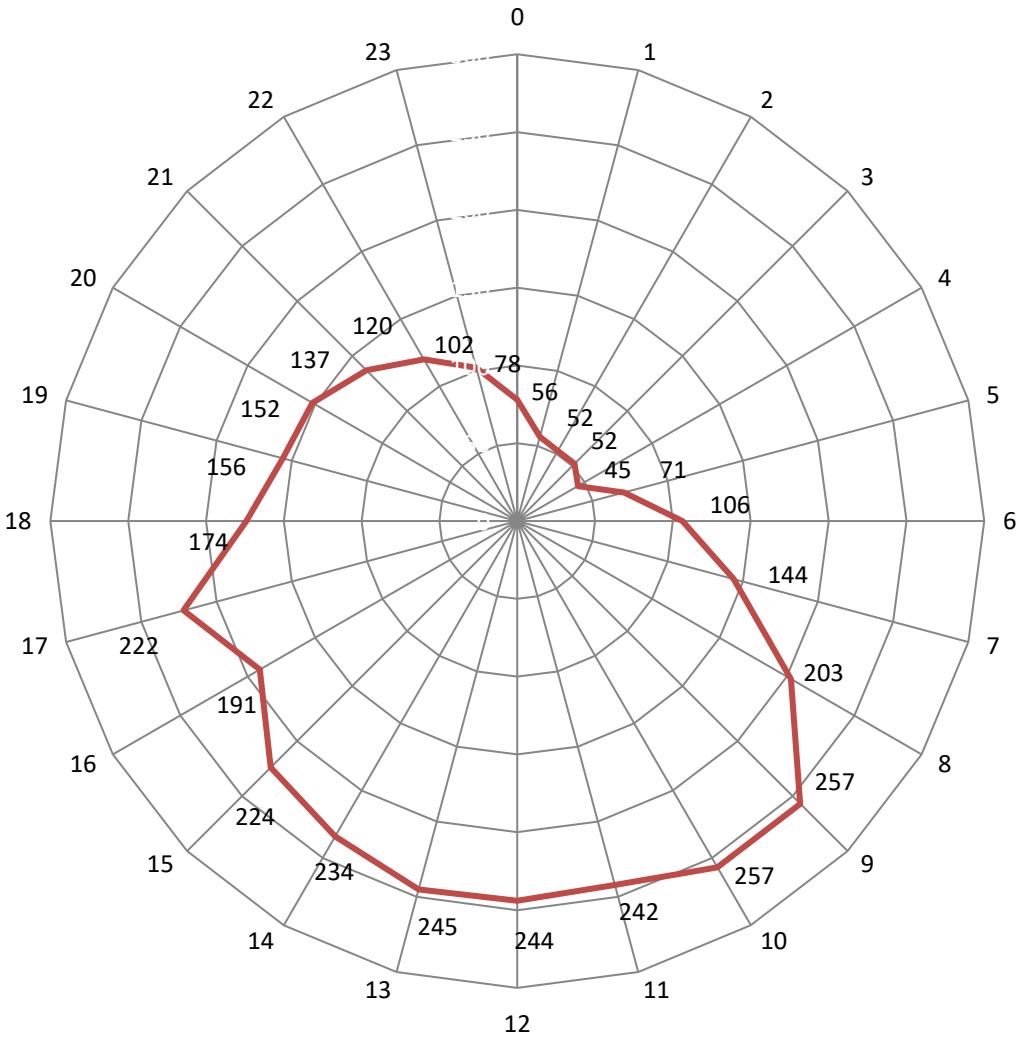


年＼曜日	日	月	火	水	木	金	土	合　計
令和３年	**479**	**565**	**543**	**565**	**514**	**569**	**529**	**3,764**
令和２年	540	551	464	531	534	508	494	3,622

時間別救急出場件数

９時台・１０時台が最も多く、最も少ないのは４時台です。

救急出場件数　3,764件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は８．０分です。５分以上１０分未満で現場到着したものが２，５４７件で、最も多くなっています。

事故種別＼所要時間	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	平均時間（分）
急　　病	15	175	1,618	494	34	**2,336**	7.9
交通事故	5	26	161	69	9	**270**	8.5
一般負傷	3	55	478	144	14	**694**	8.1
そ の 他	4	80	290	76	14	**464**	7.8
計	**27**	**336**	**2,547**	**783**	**71**	**3,764**	**8.0**

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は４０．６分で、最も多いのが３０分以上６０分未満の２，４０４人で全体の６８．７％を占めています。

所要時間 / 事故種別	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計	平均時間（分）
急　　病	0	30	464	1,499	149	8	**2,150**	39.1
交通事故	0	2	29	177	55	2	**265**	48.6
一般負傷	0	1	101	446	95	0	**643**	43.6
そ の 他	0	3	120	282	36	0	**441**	38.8
計	**0**	**36**	**714**	**2,404**	**335**	**10**	**3,499**	**40.6**

事故種別救急搬送人員

火災の減少と急病の増加が目立っています。

事故種別 / 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和３年	**1**	**0**	**2**	**265**	**69**	**36**	**643**	**11**	**11**	**2,150**	**311**	**3,499**
令和２年	6	0	0	264	53	50	647	8	16	1,941	347	3,332
増減	△ 5	0	2	1	16	△ 14	△ 4	3	△ 5	209	△ 36	**167**

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症１，７５４人（５０．１％）、中等症１，６０４人（４５．８％）、重症９６人（２．８％）、死亡４５人（１．３％）の順となっています。

事故種別 / 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死　亡	0	0	1	1	1	0	2	0	2	38	0	**45**
重　症	0	0	0	7	3	0	7	0	1	70	8	**96**
中等症	1	0	1	58	28	7	223	4	5	979	298	**1,604**
軽　症	0	0	0	199	37	29	411	7	3	1,063	5	**1,754**
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
計	**1**	**0**	**2**	**265**	**69**	**36**	**643**	**11**	**11**	**2,150**	**311**	**3,499**

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が２，２６２件で全体の６０．１％を占め、そのうち急病によるものが７９．５％です。

発生場所／事故種別	住宅	公衆出入場所	仕事場	道路	その他	計
急　　病	1,798	359	58	80	41	**2,336**
交通事故	0	8	0	262	0	**270**
一般負傷	429	111	6	96	52	**694**
そ の 他	35	353	62	3	11	**464**
計	**2,262**	**831**	**126**	**441**	**104**	**3,764**

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（６５歳以上）の搬送が２，３１５人で全体の６６．２％を占めています。

事故種別／年齢別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（２８日未満）	0	0	0	1	**1**
乳幼児（28日～６歳）	66	9	46	1	**122**
少　年（７歳～17歳）	49	14	26	28	**117**
成　人（18歳～64歳）	543	160	104	137	**944**
高齢者（６５歳以上）	1,492	82	467	274	**2,315**
計	**2,150**	**265**	**643**	**441**	**3,499**

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が１，８２３人で最も多く、整形外科、脳神経外科、外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性　別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人　員	153	79	313	342	358	235	1,009	814	57	38	3	4
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻科		泌尿器科		その他		**合計**	
性　別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	**男**	**女**
人　員	21		3	3	15	6	34	9	0	3	**1,945**	**1,554**

高速道路における救急活動状況

高速道別＼事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数	4	1	1	0	6
	搬送人員	2	3	1	0	6
	不搬送件数	2	0	0	0	2
舞鶴道	出動件数	3	0	0	0	3
	搬送人員	3	0	0	0	3
	不搬送件数	0	0	0	0	0
山陽道	出動件数	12	5	0	1	18
	搬送人員	11	4	0	0	15
	不搬送件数	1	1	0	1	3
計	**出動件数**	**19**	**6**	**1**	**1**	**27**
	搬送人員	**16**	**7**	**1**	**0**	**24**
	不搬送件数	**3**	**1**	**0**	**1**	**5**

応急処置件数

応急処置＼事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員（人）	**2,150**	**265**	**643**	**441**	**3,499**
止血	7	7	44	15	73
被覆	15	39	141	31	226
固定	9	121	84	25	239
保温	34	4	12	3	53
酸素吸入	361	12	32	86	491
人工呼吸	1	0	0	0	1
心臓マッサージ	0	0	0	0	0
心肺蘇生	70	1	5	7	83
在宅療法継続	21	0	1	0	22
血圧測定	2,057	257	622	428	3,364
聴診器	304	65	37	25	431
血中酸素飽和度測定	2,088	260	639	432	3,419
心電図測定	1,449	91	195	216	1,951
気道確保	112	1	12	11	136
経鼻エアウェイ	0	0	0	0	0
喉頭鏡・鉗子	1	0	1	0	2
＊ﾗﾘﾝｹﾞｱﾙﾏｽｸ等	40	0	1	2	43
＊気管挿管	2	0	2	2	6
以外	69	1	8	7	85
除細動	13	0	1	2	16
＊静脈路確保	54	0	3	4	61
＊うち心肺機能停止前	3	0	0	1	4
＊うち心肺機能停止後	51	0	3	3	57
＊薬剤投与	32	0	3	3	38
＊血糖測定	8	0	0	0	8
＊ブドウ糖投与	2	0	0	0	2
その他	2,118	262	642	439	3,461
計	**8,755**	**1,120**	**2,473**	**1,727**	**14,075**

＊印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数９４件で前年比２４件増加し、救助人員についても４６名で前年比１２名増加しています。

区分 / 年別	出動件数（件）	活動件数（件）	救助人員（人）	出動台数（台）	出動人員（人）
令和３年	94	62	46	287	896
令和２年	70	45	34	209	612

地区別救助出動件数

三木地区が２８件と最も多く、次に自由が丘地区の１７件となっています。
最も少ないのは、細川地区の１件です。

種別 / 地区		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
三木		1	9	1	1	14	2	28
三木南			4			2	1	7
別所			4		1	4		9
志染			6			1	3	10
細川						1		1
口吉川					1	1		2
緑が丘			1			4		5
自由が丘		2	2			13		17
青山		1				3		4
吉川		2	3	1		2		8
管外								0
その他			3					3
計	出動件数	6	32	2	3	45	6	94
	活動件数	6	20	2	1	27	6	62
	救助人員	1	24	2	1	12	6	46

発生場所別救助出動件数

住居での事故等が５０件で全体の５３．２％を占め、次に道路での事故が２６件となっています。

種別 / 場所		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
屋内	住居	5				43	2	50
	その他				1	1		2
屋外	高速道		3					3
	道路		25				1	26
	池川等		1	2				3
	その他	1	3		1	1	3	9
地下								0
その他					1			1
合計		6	32	2	3	45	6	94